

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 工学部

基準 2 内部質保証

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☑ 2022 年度課題事項 ☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0203	全学科における自己点検・評価、内部質保証システムの確立と教育改善システムの継続的な実施
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2022 年度においては課題事項として全学科における内部質保証システムの構築を挙げたが、全学的に実施される自己点検・評価は詳細点検、年度点検、ピアレビューを 1 年ずつ実施し、継続的に PDCA サイクルを回している状態であることから、現状のシステムを継続する。 都市建設工学科、建築学科、応用化学科の 3 学科においては、外部評価として JABEE による技術者教育プログラムの認定を 6 年毎に受けており、2024 年度に自己点検資料を作成・提出し、2025 年度夏頃に審査実施予定である [2-1] [2-2] [2-3] [2-4] [2-11]。(EC, EA, EK) なお、建築学科については JABEE 資格の必要性を見直し、2025 年度入学生を最後として、プログラムを終了する [2-5]。 各学科における取り組みのうち、特徴的なものを以下に示す。 「アドバイザーボード会議」などの外部評価に加え、卒業生（卒業時）・就職先企業へのアンケート等を通じて、内部質保証システムを構築するとともに、教育改善システムに反映している [2-1] [2-2]。(EK) - 中部大学 OB の就職先企業から、OB に関する現状を聞く機会を設けている [2-6]。(EP)	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0201	内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。	自己評価	A
評価の視点	(3)大学全体規模や学部、研究科その他の組織（教職課程を実施する全学的組織を含む）における自己点検・評価をそれぞれ定期的に実施し、その結果を活用して改善・向上に取り組んでいるか。 (4)学部、研究科その他の組織における自己点検・評価の客観性、妥当性を高めるために、学生の意見や外部の視点を取り入れるなどの工夫をしているか。 (5)行政機関、認証評価機関等から指摘事項があった場合、それに適切に対応しているか。			
現状説明				

全学的に実施される自己点検・評価として詳細点検、年度点検、ピアレビューを1年ずつ実施し、継続的にPDCAサイクルを回している。内部質保証のための全学的な方針に基づき[2-8]、大学全体としての自己点検・評価[2-9]、工学部・学科における自己点検・評価、および個々の教職員による自己点検・評価[2-10]を行っているが、各学科内における内部質保証システムの在り方についての議論は十分に進んでいない。 都市建設工学科、建築学科、応用化学科では、外部評価としてJABEEによる技術者教育プログラムの認定を6年ごとに受けており、2024年度に自己点検資料を作成・提出し、2025年度夏頃に審査実施予定である[2-1][2-2][2-3][2-4][2-11]。 各学科における取り組みのうち、特徴的なものを以下に示す。 「アドバイザーボード会議」などの外部評価に加え、卒業生（卒業時）・就職先企業へのアンケート等を通じて、内部質保証システムを構築するとともに、教育改善システムに反映している[2-1][2-2]。(EK) 「外部評価委員会」、「アドバイザーボード会議」などの外部評価に加え、非常勤講師との懇談会、卒業生（卒業時）・就職先企業へのアンケート等を通じて、内部質保証システムを構築するとともに、教育改善システムに反映している[2-1][2-2][2-3][2-4][2-6][2-7]。(EK, EP) - 外部評価委員会、非常勤講師との懇談会を開催し、教育改善システムに反映させた[2-1][2-2]。(EA) - FD活動の一環として、学生の学力に関して改善すべき点を学科内で議論し情報共有している[2-7]。また、中部大学OBの就職先企業から、OBに関する現状や意見を聞く機会を設けている[2-6]。(EP)

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0201	外部評価委員会の開催 [2-1] (EA)
項目 No. 0201	学科独自のアドバイザーボード会議開催 [2-3] (EK)
項目 No. 0201	就職先企業から、OBに関する現状や意見を聞く機会を設定[2-7] (EP)

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0201	内部質保証システムの在り方、内部質保証に関する学科間をまたいだ議論は十分に進んでいない。
今後の改善・向上方策	
JABEEによる技術者教育プログラムの認定を6年毎に受けており、2024年度に自己点検資料を作成・提出し、2025年度夏頃に審査実施予定であり、一部の学科とは議論ができている。(EK)	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
レビューなし
長所・特色

留意点	*各項に留意点レベルを記入	【A】緊急の改善を要する事項	【B】検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
 ●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
 △：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022~2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 工学部

基準 4 教育・学習 (4a)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☑ 2022 年度課題事項 ☑ 2022 年度ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0403	自己点検・評価にあるように、DP・CP に即した教育課程であるかについて定期的に点検する体制の整備が望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
教育課程およびその内容、方法の適切性については、学位授与の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、必要な IR データを取捨選択しながら、アドバイザリーボードなどによる外部評価も活用して定期的・組織的に自己点検・評価を行う仕組みが求められる。そのような仕組みを保有することの重要性について、学部内で共通認識を構築している。 具体的状況は以下の通りである。 - DP、CP を検討・修正し[4a-1][4a-2][4a-3]、外部評価委員会による自己点検・評価 [4a-4] を行った。これらは教育改善システムの活動の一環である。また、IR データとして GPS-Academic を取り上げ、その活用について学科内に WG を立ち上げて議論した [4a-5]。具体的な IR データの活用については継続的に検討する。(EC) - 教育課程およびその内容と方法の適切性を DP、CP に基づきながら自己点検・評価を行う仕組みを学科内に構築している。具体的には、GPS-Academic 資料、卒業生（卒業時）アンケート結果、全ての学科専門科目について授業期間終了時に受講学生に対して実施する学習達成度評価アンケート結果などとともに、アドバイザリーボードによる外部評価を含めた各情報を学科所属教員間で共有し、定期的・組織的に自己点検・評価を行っている。特に、大学方針に基づく 2028 年度に向けた科目の大幅精選への対応を検討する過程で、教育課程の再検討を学科の教室会議あるいは FD 会議の中で行う「カリキュラム検討会議」などの場で議論を深めていく[4a-6] [4a-7] [4a-8] [4a-9] [4a-10]。(EK) - 学科内教務会議において、DP、CP に基づいた教育課程変更・科目精選について議論し実現可能な方策について意見を交換した[4a-11]。(EP) - 科目の削減を検討する過程で教育課程の再検討を各学科「カリキュラム検討会議」などを中心として行いながら議論、教育課程の変更を実施した[4a-12][4a-13][4a-14]。(EM, EP, EL) 変更した教育課程を踏まえつつ、実験科目等の検討を進め、具体的な実施要領についても具体化させた[4a-15]。(EL) - 一部講義の選択必修化により、学生の志望分野を明確化した。(EA)	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0406	プログラミング教育効果の客観的調査
今後の改善・向上方策	
プログラミング教育における論理的測定問題の分析と基準提案に基づく調査を順次拡大していくとともに、客観的プログラミングスキル調査を実施、学生向け測定問題を改善していく。(EP)	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0406	学生の DP・CP に関する把握、理解不足
今後の改善・向上方策	
DP・CP の理解を深めるための機会の設定が課題と認識されており、大学 Web ページ等を通じた発信を行っているものの十分とはいえない。今後は、スタートアップセミナーなども含めた具体的な説明機会や説明方法の工夫について検討を進めていく (EK) (EP)。学科によっては周知しているところもある。(EM)	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0406	教育活動に対する IR データの具体的活用とそれによる教育課程の適切な見直し
今後の改善・向上方策	
IR データの具体的活用について議論・検討をしている学科、していく予定の学科がある。 ・ 教育支援検討委員会および学科会議にて具体的活用について検討している。(EC) ・ 学科内で WG 等を立ち上げ、データの具体的活用について議論し方策を検討していく。(EK) ・ 学科内の教務委員会において議論検討する。(EP)	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0401	達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学位授与方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしているか。また、教育課程の編成・実施方針において、学習成果を達成するために必要な教育課程および教育・学習の方法を明確にしているか。 (2)上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。			
現状説明				
卒業認定・学位授与の方針（DP）には指導方針や養成する人物像が明記されており、各学科会議にて検討し、原案を作成後、教授会において学部内整合性等を更に検討した上で案を承認する。承認された案は、教務委員会等の大学全体レベルでの会議にて学部間整合性を検討し、最終決定され、大学ホームページに公開している [4a-16][4a-17]。				

評価項目	0402	学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	自己評価	A
評価の視点	学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 ※ 具体的な例 ・ 授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講。 ・ 各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化。 ・ 学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化。 ・ 学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間および単位の設定。			
現状説明				
教育課程の編成・実施方針（CP）については、教育内容、方法、評価法などが明記されており、各学科会議にて検討し、原案を作成後、教授会において学部内整合性等を更に検討した上で案を承認する。承認された案は、教務委員会等の大学全体レベルでの会議にて学部間整合性を検討し、最終決定され、大学ホームページに公開している[4a-16 pp.⑥～⑫][4a-17]。 具体的状況は以下の通りである。 ・ 学部、各学科の教育理念及び教育目標と卒業要件・教育課程の関連性などは学部独自で発行している工学部履修ガイドブックに明記し、在学生に示している [4a-18]。 ・ 科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリング[4a-19]を行うとともに、カリキュラムマップや教育課程系統図によって教育課程の体系やコースの意味を明確にしている[4a-20]。 ・ 教育課程系統図にあるように、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、各学科専門教育科目を体系的に編成し、専門基礎科目を低学年に配置することで、高大接続に配慮している[4a-16 pp.19, 32, 43, 55, 68, 82]。また、一部の学科においては、初年次教育のスタートアップセミナーにおいて学科教育を題材にした少人数制ゼミ形式の実施や、遠隔授業等に対応できるよう ICT 教育を導入するなど独自の取り組みを行っている[4a-21]。 ・ 講義形式に加え、学生が主体的に行う演習、実験、実習、製図等を適切に組み合わせた授業を				

学部全体において実施している[4a-16 pp.19, 32, 43, 55, 68, 82]。

- カリキュラムの適切性は各学科会議において検討され、教育課程の変更が必要な場合は、工学部教務委員会で審議されている[4a-17]。なお、DP、CP に即した教育課程であるかどうかについて、2024 年度以降入学生には DP と各科目の関係性を示したカリキュラムマップを作成し、教育課程変更の際には必ず DP・CP との関連性を見直す体制ができている。
- 都市建設工学科、建築学科、応用化学科においては、外部評価（JABEE）審査を受審しており、自己点検・評価が適切であることが確認される仕組みとなっている。また、各学期のはじめに、学生による目標の達成度の確認を実施し、適切な科目履修を指導している[4a-18 pp.50, 72-76, 87, 96-103]。
- 社会的および職業的自立をするうえで資格取得が非常に重要としており、各学科において、学科教育科目に関連の深い資格の受験を奨励している。また一部の学科では、これを支援する科目群を用意している[4a-16 pp.58-67]。
- 3 年次の選択必修としてデザイン・計画・構造・材料・環境の各分野の専門科目を並列させ、学生の志望分野の選択を明確にした。(EA)

評価項目	0403	課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	自己評価	A
評価の視点	(1)授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果および教育課程の編成・実施方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。 (2)ICT を利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているか。 (3)授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。 ※ 具体的な例 ・学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応。 ・単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置。 ・シラバスの作成と活用（学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容であるか。）。 ・授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等などの措置。			
現状説明				
評価の視点ごとに具体的状況をまとめると以下の通りである。 (1) ・各学科において教務委員を選出し学部教務委員会を開催し、全学の教務委員会依頼事項の各学科への展開および学部内検討、各学科教育課程変更の検討などを重点的に議論している[4a-17]。 ・シラバスには「カリキュラムの中での位置付け」、「身につく基礎力」、「授業の趣旨」、「具体的達成目標」、「授業計画」、「授業方法」、「成績の評価方法」、「成績の評価基準」が必須項目として記載されており、「授業計画」は授業の各回の具体的内容と予習・復習の指示を含んでいる[4a-22]。毎年度末に各学科専任教員によるシラバスの第三者点検を実施しており、各項目が DP、CP などにふさわしいか否かを判断し、不備がある場合には修正を求めている[4a-23]。 ・多くの学科で実践・体験型授業を導入しており、学生の主体的参加を促す授業内容を多く取り入れている[4a-21]。 (2) ・初年次におけるリモート授業、LMS、CAD 等の ICT 教育のさらなる改善を検討し、その一環として、2022 年度からスタートアップセミナーにおいて、ICT 教育の授業を新規に設けた[4a-21]。 ・魅力ある授業づくりへの取り組みとして、学生による授業評価・教員による授業自己評価を行っている[4a-24]。また、定期的に開催される FD フォーラム・講演会への参加を推奨している[4a-25]。 ・教育活動顕彰制度受賞者による学部 FD 講演会を開催し、魅力ある授業づくりの手法やテクニックについて、情報共有を行っている[4a-25]。 (3) ・各学年に履修単位数の上限を設け、学生便覧において明確に示している[4a-16 p.11]。学生が無理な履修計画をしないよう、学科毎に進級要件が規定されており、留年者や退学者の状況を確認しながら、定期的な見直しを行っている[4a-16 pp.19, 32, 43, 55, 68, 82]。学科によっては、これまで 4 年進級時にしかなかった取得単位数制限を 3 年進級時にも設定し、学生に単位の取得の意味を理解させる				

ようにしている[EA-04a03]。(EA)

- ・各学期の開始前には学年毎の履修のオリエンテーションを実施しており、履修に関する個別相談の時間を設けている[4a-26]。
- ・学科独自の「学習達成度アンケート」を行い、学生の学習の理解度・達成度の確認を行っている。[4a-27]
- ・毎年、「応用化学科・応用化学専攻研究交流会」を開催し、学部学生と大学院生の交流を深め、学部学生の各研究室の研究内容に関する理解を深める場の提供のみならず、大学院進学率の向上につなげている。[4a-28] (EK)
- ・建築家として活躍している OB を招き、1～3 年生を対象とした建築実務セミナーを開催し、将来の職業に対するヴィジョンを持たせるとともに、学ぶモチベーションを高めている[4a-29]。(EA)
- ・卒業研究発表会に 3 年生の参加・聴講を義務付け、聴講レポートの提出を求めている。3 年生の卒業研究に対する意欲の向上を促している[4a-30]。(EP)

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0404	定期的に開催される FD フォーラム・講演会への参加の励行[4a-25]。
項目 No. 0404	教育活動顕彰制度受賞者による学部 FD 講演会を開催し、新しい授業手法などの情報共有の機会を設ける[4a-25]。
項目 No. 0404	建築家として活躍している OB を招いた建築実務セミナーの開催[4a-29]。(EA)
項目 No. 0404	「応用化学科・応用化学専攻研究交流会」の毎年開催[4a-28] (EK)
項目 No. 0403	3 年生の卒業研究発表聴講案内と聴講レポート課題を設定[4a-30]。(EP)

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0403	「応用化学科・応用化学専攻研究交流会」(EK)
今後の改善・向上方策	
毎年、学部学生と大学院生との研究交流会を研究室配属前の時期に開催し、交流を深めることで、卒業研究のための研究室配属に関するミスマッチを極力減らせるように努力している。(EK)	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
[0401]「卒業認定・学位授与の方針」(DP)に指導方針、養成する人物像が明記され、大学ホームページに公開しており、達成すべき学修成果や教育・学修の基本的なあり方が示されている。 [0402] ヒアリングにおいて工学部は、各学科の教育内容を講義（座学）、演習、実験などを交えて学修させ、知識・技術の定着を図っている他、学び続ける能力、試行錯誤を繰り返す、課題解決につなげる能力も育成している。また創成教育として、実社会によくある「解の無い課題」について、自ら解を見出す教育を目指していることがわかった。こうしたことを踏まえて、「専門基礎科目を低学年に配置」し、「高大接続に配慮し」つつ、「全学共通教育科目、工学部共通教育科目、各学科専門科目へと」教育課程が体系的に編成されている。授業科目としては、ICT教育を導入したり、「講義形式に加え、学生が主体的に行う演習、実験、実習、製図等を適切に組み合わせた」ものを開設したりしている。卒業後のために資格取得も奨励している。 [0403] シラバスによって、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援をしている。ま

た、学生が意欲的かつ効果的に学習できるよう「実践・体験型授業を導入」（実践・体験型授業とは、社会のニーズに関する問題について、グループワークを取り入れた課題解決を目指す授業）している。ヒアリングを通じて、初年次教育、全学共通教育、学部・学科教育の連携において、課程修了時の学習成果が達成され、実践・体験型授業がその過程で実践されていること、そして学習効果も高まることが期待されることがわかった。「FD 講演会を開催し」たりして工夫に努めている。さらに「履修に関する個別相談の時間を設け」たり、「単位の取得の意味を理解させるようにし」たりしている。

長所・特色	
[0403] 教育活動顕彰制度受賞者による学部 FD 講演会を開催し、新しい授業手法などの情報共有の提供がなされていることから、学生視点に立った学習支援の工夫が見られる。	
留意点	*各項に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 工学部

基準 4 教育・学習 (4b)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ 2022 年度ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0406	学習成果の確認、進級などの実績把握、学習成果把握のための評価が学科主導で実施されているが、学部としての統一的な指標や分析・検討が望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学習成果の確認や進級に関する実績把握、評価については各学科が主体となって取り組んでいる。学科によっては、外部評価（JABEE）審査の受審や「アドバイザリーボード会議」を通じて、適切な評価体制を構築し、種々の評価が適切であることを確認できる仕組みをとっている。	

☐ 課題事項	☒ 2022 年度ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0406	全学的な課題であるが、IR データの定義やそれに対する認識を定め、IR データを日常的に入手・活用できるシステムの構築が必要である。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
IR データの定義や認識を明確にし、日常的に入手・活用できる体制の整備は全学的な課題であるが、一部の学科においては「学びに関する調査」や「GPS-Academic」の結果について定期的に教室会議で共有し、学科共通室での閲覧を可能とするなど、データ活用の工夫がなされている。（EK）	

☒ 2022 年度課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0405	単位の組織的客観性を持った認定方法の構築
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
単位認定は各教員がシラバスに明記した評価方法に基づいて実施しており、一定の透明性は確保されている。しかし、単位認定の組織的・客観的な運用という点では、学部全体として統一的な仕組みの構築には至っていない。一部の学科では、外部評価（JABEE）審査を定期的に受審しており、すべての学科専門教育科目における期末試験、レポート等の答案および成績評価は、学科の JABEE 準備室に保管し所属教員が随時閲覧できるようにすることで透明性を保つ努力をしている。（EK）	

☒ 2022 年度課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0405	卒業研究評価に対する基準の明文化
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
卒業研究の評価については、研究分野や実施体制が学科ごとに多様であることから、学部として一律の基準を設けるのではなく、各学科においてそれぞれの特性に応じた評価方法や基準の明文化が求められる。 具体的状況は以下の通りである。 ・ 卒業研究の評価方法、評価基準を明文化し、学生に周知している。（EC） ・ 卒業研究に関しては、発表会を開催し、複数の教員で内容を審査する。発表会は原則として学科内で公開（ただし、発表会参加者は守秘義務に関する署名は行う）であり、透明性・客観性も担保している。また、卒業論文の成績評価報告は、指導教員による評価基準の各項目（教室会議にて策定）に対する成績評価をもとに学科主任がとりまとめる方式を取り、公平性・客観性を担保する努力をしている。（EK） ・ 卒業研究においては、学科の全教員が担当し、中間発表、最終発表、卒業論文などに基づいた審査	

会を実施している。この審査会には単位認定も含まれており、学科としての組織的な取り組んでいる。[4b-1]

☑ 2022 年度課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0405	シラバスに記載の評価方法を遵守していることの組織的確認体制が不十分
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
シラバスには評価方法が明記されており、シラバス記載内容の第三者点検を実施しているという点から、組織的にある程度の確認体制が取れている[4a-23]。一部の学科においては、外部評価（JABEE）審査を定期的に受審しており、すべての学科専門教育科目における期末試験、レポート等の答案および成績評価は、学科の JABEE 準備室に保管し所属教員が随時閲覧できるようにすることで透明性を保つ努力をしている。（EK）	

☑ 2022 年度課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0405	学生による授業アンケート評価において、十分な人数の学生から回答が得られていない
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
授業アンケートの回答率は全体として高いとは言えず、2024 年度春学期における工学部の回答率は 29.6%で、全学平均（32.7%）をやや下回っている。回答率向上のために、学科によっては以下の対応をとっている。 ・ 授業等でアンケートへの回答を呼び掛けている。（EC） ・ 学科専門科目については、学科独自の「学習達成度アンケート」を授業期間終了時に行い、その結果を授業科目ごとに集計してより正確な評価結果が得られるようにしている[4b-2]。（EK）	

☑ 2022 年度課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0406	学習成果の把握については GPA 以外の方法が無く、アセスメント・テストや学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生、就職先への意見聴取を実施すべきである。（EM）
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学びに関する調査を実施している。特に、学部卒業生に対しては、学位記授与式に合わせて実施しているため 9 割以上の高い回答率が得られている。個々の教員とつながりの強い卒業生の意見を聞くことはできているものの、広く卒業生の意見を聴取できるような仕組みの構築に関しては着手できていない。（EM） 学科内で独自に行われる指導教員とのポートフォリオ面談結果および学部 1 年生時と 3 年生時に行われるアセスメント・テスト「GPS-Academic」の結果を教員は随時閲覧できるようにしている。さらに学科独自に入学時と卒業後（卒業時）、就職先へのアンケートを実施しており、その結果を各教員間で共有している。[4b-3]（EK）	

☑ 2022 年度課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0406	IR データを日常的に柔軟に入手できるシステムの構築。例えば Tora-net 学修ポートフォリオに組織に確認可能な、柔軟かつ多機能のダッシュボードを実装する。最低限、毎年度の「教育・研究活動に関する実態資料」の冊子をデータベース化する。（EM）
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
大学が収集する IR データが活用しやすい形態で教育現場に提供されることが重要であるが、そのようなシステムの構築については大学レベルでの検討が必要であり、今後の検討課題である。一方で、教育・研究活動に関する実態資料についてはデータベース化され、十分な進展が見られた。（EM）	

☑ 2022 年度課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0406	ルーブリック評価の実施状況の点検と評価方法の継続的な見直し。（EC）
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
都市建設工学科では、学科会議にて、卒業研究の評価方法・評価基準の点検と必要に応じた見直しを実施している。（EC） 個々の教員レベルでは、ルーブリック評価の実施とその見直しが一部で行われているものの、複数教員が担当している科目においては、ルーブリック評価案を統一することが困難で、導入の目処が立っていない。（EM）	

☑ 2022 年度課題事項 ☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0406	学習成果を客観的に測定するシステムの構築。（EL）
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
IR データ（学びに関する調査、アセスメント・テスト「GPS-Academic」）の活用をより進める検討を行う。（EK） 一部の教員で IR データの活用を検討しているものの、学科全体での組織的な活用にまでは至っていない。（EL）	

☑ 2024 年度課題事項 ☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0406	プログラミング教育効果の客観的調査
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
実験・演習を伴う教育プログラムの PDCA サイクルに関する研究成果は学科内で共有されている。また、プログラミング教育における論理的測定問題の分析と基準の提案を卒業研究として新たにテーマ設定した。その提案に基づく調査を現在実施中である[4b-4][4b-5]。（EP）	

☑ 2024 年度課題事項 ☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0406	学生の DP・CP に関する把握、理解不足
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
DP・CP の理解を深めるための機会の設定が課題と認識されており、大学 Web ページ等を通じた発信は行っているものの十分とはいえない。今後は、スタートアップセミナーなども含めた具体的な説明機会や説明方法の工夫について検討を進めていく（EK）（EP）。学科によっては周知しているところもある。（EM）	

☑ 2024 年度課題事項 ☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0406	教育活動に対する IR データの具体的活用とそれによる教育課程の適切な見直し
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
IR データを入手・活用できる体制の整備は全学的な課題であるが、一部の学科においては以下のように取り組んでいる。 ・ 教育支援検討委員会および学科会議にて具体的活用について検討している。（EC） ・ 教育課程の見直しのため、IR データのより有効な活用法について学科構成メンバーによる教室会議または学科 FD 会議で討議し、さらに「アドバイザーボード会議」からの意見も求める方法で検討を進める。（EK）	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0404	成績評価、単位認定および学位授与を適切に行っていること。	自己評価	A
評価の視点	(1)成績評価および単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか。(2)上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。 (2)成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示しているか。 (3)既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を適切に行っているか。 (4)学位授与における実施手続および体制が明確であるか。 (5)学位授与方針に則して、適切に学位を授与しているか。			

現状説明	
シラバスに明記された「達成目標」「成績評価方法」に基づき、成績評価を実施している。 具体的状況は以下の通りである。 ・ 複数担当者による授業科目においては、担当者全員で成績を共有し、その客観性、厳格性を保つよう努めている[4b-6]が、単独で担当する科目については、各担当教員が厳格に成績評価しているものの、すべての科目において組織的客観性を持って相互にチェックを行うことは非常に困難であり、この点は課題である。 ・ 都市建設工学科・建築学科・応用化学科においては外部評価（JABEE）審査を定期的に受審しており、すべての学科専門教育科目における期末試験、レポート等の答案および成績評価は、学科のJABEE 準備室に保管し所属教員が随時閲覧できるようにすることで透明性を保つ努力をしている。 ・ 資格保持者に対する単位認定および3 年次編入生に対する単位の読み替えは規程に照らして行われている[4a-16 pp.61, 436-437]。また、オハイオ大学長期研修プログラム参加者の単位認定に関しても学部内規程に照らして行われている[4b-7]。 卒業研究・卒業設計の実施状態は以下の通りである。 ・ 卒業研究に関しては、多くの学科では、発表会を開催し、複数の教員で内容を審査する。発表会の一部を除き公開であり、透明性・客観性も担保している。また、卒業論文の成績評価報告は指導教員による成績評価（案）を学科主任がとりまとめ、学科教員全体に開示し報告前に意見を申し立てることができ仕組を取り公平性・客観性を担保する努力をしている。 ・ 卒業設計に関しては全教員で審査し、最優秀、優秀、佳作を決めて卒業式において表彰し、また卒業設計優秀作品展を学内で開催することで在学生のモチベーションを高めている。（EA） ・ 卒業論文の審査基準はルーブリック等で明確に規定している学科もあり、その取組と手法について、教授会において紹介する機会を設けた [4b-8]。 卒業認定・学位授与の方針（DP）には、指導方針や養成する人物像が明記されており、各学科会議にて検討し、原案を作成後、教授会において学部内整合性等を更に検討した上で案を承認する。承認された案は、教務委員会等の大学全体レベルでの会議にて学部間整合性を検討し、最終決定され、大学ホームページに公開している [4a-17] [4b-9]。 具体的状況は以下の通りである。 ・ 卒業要件は明確に規定されており、中部大学ホームページと学生便覧に明示されている[4a-16 pp.11、24、35、46、58、71]。学位論文審査基準は、卒業研究のシラバスに「成績評価方法」、「成績評価基準」が明記されており、主査および副査による厳密な審査が行われている[4b-10]。また、一部の学科においては様式と審査基準を設けている [4b-11] 。 ・ 学位授与に際しては、教務支援課より提示された事前審査を基に各学科教室会議で各学生の単位修得状況を確認した上で、教授会において厳格に審議し、卒業を認定している[4b-12]。	

評価項目	0405	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価していること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学習成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているか。学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (2)学習成果を把握・評価する指標や方法は、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切なものか。 (3)指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し、大学として設定する目的に応じた活用を図っているか。 ≪学習成果の測定方法例≫ ・アセスメント・テスト（GPS-Academic） ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査（学びに関する調査 等） ・卒業生、就職先への意見聴取 ※ 具体的な例 ・授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講。 ・各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化。 ・学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化。 ・学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間および単位の設定。			
現状説明				

学生の学習成果は、100 点満点、成績（S、A、B、C など）、GPA などの指標により点数化される。教員は所属学科の学生の各科目の成績（S、A、B、C など）と全科目平均の GPA は、Tora-net を通じて確認することができる[4a-16 pp.4-5]。

具体的状況は以下の通りである。

- ・ シラバスに各科目における、期末テスト、宿題、授業態度等の評価対象と、全体の評価に対するその割合等を記載し[4a-22]、その基準に基づき評価を行っている。多くの科目で行う期末テストは正誤が明確で点数化が容易にできる。
- ・ 専門的な職業を担うのに必要な能力の修得状況の指標として一級建築士などの資格の指定科目認定[4b-13]を参考とし、必要に応じて学科のカリキュラム、成績評価、卒業要件が適正に機能しているかを見直している。
- ・ 進級状況に関しては、年度末の学科会議、および教授会の資料により確認・把握している[4b-14]。
- ・ 卒業研究に関しては、発表会を開催し、学修の効果を把握している[4b-15]。卒業研究等の点数化に個人差が出やすい科目においてはルーブリックを定めている学科もある[4b-8]。
- ・ 学生自身による達成度評価アンケートや、卒業生に対するアンケート（卒業時アンケート）を実施したり、就職先や関連企業に勤務する卒業生の非常勤講師による授業や外部講師懇談会を行ったりして、結果を教室会議で報告・共有し、次年度の改善に役立てている学科もある[4b-2] [4b-3]。
- ・ 指導教員による個人面談を実施して学生の状況を把握、指導する仕組みが確立されている [4b-16]。
- ・ 在学中の学習成果の評価は、卒業要件を満たし、学科の定めた学習・教育到達目標を達成することであり、これらは（一社）日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準項目を満たしている[4b-17]。また、卒業時においては卒業論文および発表プレゼンテーションにおいて学会での発表リストを明示させている。卒業論文については、卒業論文審査委員会を設置し研究分野別に全提出論文の査読、評価の審議を実施、これを卒業研究の成績に反映させている [4b-18]。
- ・ 学生の学習成果について、学部として組織的な分析・検討は行っていない。

評価項目	0406	教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしているか。 (2)課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況、資格試験の取得状況、進路状況等の情報を活用するなど、適切な情報に基づいているか。 (3)外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、自己点検・評価の客観性を高めるための工夫を行っているか。 (4)自己点検・評価の結果を活用し、教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。			
現状説明				
評価の視点ごとに具体的状況をまとめると以下の通りである。 (1) 全学的に実施される自己点検・評価として詳細点検、年度点検、ピアレビューを1年ずつ実施し、継続的にPDCAサイクルを回している。 教員の自己点検・自己評価として、各教員が毎年度初頭に「教員活動重点目標・自己評価シート」を提出して当該年度の重点目標を設定し、これを学部長・学長が点検している。また、年度終わりに同シートに自己評価を記して提出し、これを学部長・学長が点検している[2-10]。 都市建設工学科、建築学科、応用化学科では、外部評価としてJABEEによる技術者教育プログラムの認定を6年ごとに受けている。JABEE認定は、自己点検と改善を行うことが前提となっており、そのような仕組みが確立されている。例えば、学科独自の「アドバイザーボード会議」を、評価・改善の仕組みの一つとして毎年開催しており、外部委員からの意見聴取を行っている。また、卒業生に対するアンケート（「卒業時アンケート」）の実施に加え、全ての学科専門科目について授業期間終了時に「学習達成度評価アンケート」を学生に対して実施し、その結果に基づいた改善への取り組みを行っている。さらに、教育組織の改善・向上に向けて、学科独自のFD委員会を組織し、FD講演会を実施している。また、学科としてFDオンデマンド講義の利用を申請し、学科内の教員で活用している。さらに、GPS-Academic資料の回覧など、教育課程の自己点検・評価にIRデータを活用できるようにする取り組みも進められている[4a-6] [4a-7] [4a-8] [4a-9]。(EK) 各学科における取り組みのうち、特に特徴的なものを以下に示す。 ・ 実験・演習を伴う教育プログラムのPDCAサイクルに関する研究成果は学科内で共有されている。また、プログラミング教育における論理的測定問題の分析と基準の提案を卒業研究として新たにテ-				

マ設定した。その提案に基づく調査を現在実施中である。(EP)[4b-4][4b-5]

(2)

- ・ 日常的・組織的な IR システム・機能はまだ確立されてはいないが、「学びに関する調査」や「GPS-Academic」の結果について定期的に教授会で共有、教育課程およびその内容、方法は学科会議や独自の FD 活動や学科教務会議にてその時代の要請に沿う方向で適切に改正が提案され[4b-20]、学部教務委員会においてその内容を審議・検討している。また、教育課程変更時に CP、DP を確認して行うこと、卒業研究の評価基準を明文化すること、成績評価の客観性、厳格性への留意点等に基づき、卒業研究ルーブリックの作成を各学科で検討した。「学生による授業評価」「教員による授業自己評価」を実施、授業の点検評価と改善に取り組んでいる[4b-21]。
- ・ DP、CP を検討・修正し[4a-1][4a-2][4a-3]、外部評価委員会による自己点検・評価[4a-4]を行った。これらは教育改善システムの活動の一環である。また、IR データとして GPS-Academic を取り上げ、その活用について学科内に WG を立ち上げて議論した[4a-5]。具体的な IR データの活用については継続的に検討する。(EC)
- ・ アドバイザリーボード会議議事録を学科教室会議で報告し、外部評価を学科構成員で共有した。また、すべての学科専門科目について、授業期間終了時に学習達成度評価アンケートを学生に対して実施し、その結果に基づいた改善への取り組みを行っている。学科独自の FD 活動として、遠隔講義スキルアップおよび教育活動表彰を受けた教員による授業改善のための講演会や FD オンデマンド講義の視聴を行った[4a-24][4a-25]。(EK)
- ・ 学科会議や学科 FD 活動において、資格に関する関心度も考慮しつつ、教育課程の改定案が検討され、資格との関連性を確認した[4a-14][4a-15]。(EL)
- ・ 数学・物理学のフレッシュマンテスト結果のデータに基づき習熟度別クラスを編成している。数学教科書(数学基礎、微積分学、線形代数学)を作成している[4b-22]。教育現場の意見を取り入れ、毎年修正加筆を行なっている。毎年 3 月に、非常勤講師を含めた数学、物理学の講義系科目担当者が参加する教育懇談会を開催している[4b-23]。この懇談会では、教科書の変更点に関する情報共有や、JAABEE 資料作成方法、Google Classroom の利用方法等に関するノウハウを共有している。(基礎教室)

(3)

- ・ 定期的な外部点検・評価である JABEE 認定は、自己点検と改善を行うことが前提となっており、JABEE 認定を受けている都市建設工学科、建築学科、応用化学科では、そうした仕組みが確立されている[2-8]。また、アドバイザリーボード会議も、評価・改善の仕組みの一つである。[4a-6][4a-7](EK)
- ・ 卒業研究ルーブリック(卒業設計用)を策定した[4b-8]。なお、卒業論文用は都市建設工学科と同一としている。2024 年度の JABEE 認定継続審査の申請を行い、受審に向けて準備を始めている[4b-24]。(EA)
- ・ 前回の詳細点検で、入試種別の学生の成績分布、進級、退学などの実績を各学科教務委員会において把握することを改善・向上項目としてあげていた。進級、退学の実績については、教員間で共有するようになり、現状問題はないと認識している。入試種別の学生の成績状況については、GPS-Academic(学生面談カルテ)等の有効活用が考えられる。(EA)
- ・ 工学部・理工学部の学科初年次生の学生が基礎的な工学実習・初歩的な理工学実験を行いながらレポートの作成の仕方を学ぶための科目「創造理工学実験」を開講し、各学期開始時に非常勤講師を含めた担当教員で授業内容・方法の確認、課題難易度の確認を行っている[4b-25]。各学期の成績会議・授業検討会議[4b-26]で、その授業内容・方法の検討、難易度の調整などを継続的に行っている。また各学期の創造理工学実験運営委員会で、各クラス・各学科の授業状況を報告[4b-27]するとともに、各学科の教員からの意見を聴取している。(基礎教室)

(4)

- ・ 教育課程の変更や、教育課程変更後の具体的実施方法については、学科会議で提議し、学科内のカリキュラム検討会議で具体案を検討し、学科会議でその案について審議を行うという手順で進めている[4b-20]
- ・ 2018 年度の JABEE 認定時の指摘を踏まえた目標の確認方法の見直し、教員間の連絡調整の恒常化等について、カリキュラム検討委員会、教育支援検討委員会で検討を行なっている。(EC)
- ・ 以前の課程変更で回路系科目を廃止した悪影響について意見があり、回路系科目を新設する教育課程変更を申請した[4b-28]。(EP)
- ・ 学科会議や学科 FD 活動において、資格に関する関心度も考慮しつつ、教育課程の改定案が検討され、資格との関連性を確認した[4a-14][4a-15]。(EL)
- ・ 総合機械工学(夏期集中)の学生の履修状況を鑑み、カリキュラム検討会議にて科目の趣旨や実施内容や実施方法について再検討を行った。(EM)

その他

- ・ 演習授業における実践を含む情報系人材育成のために、教育フレームワークに関する研究に対して科研費によるサポートを受けている。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0406	卒業研究・創成科目におけるルーブリック評価の導入[4b-8](EC)
項目 No. 0406	学科独自のポートフォリオを作成し、学期ごとにすべての学生に対して各指導教員が個人面談を実施し、状況把握を行っている[4b-16](EK)
項目 No. 0407	一級建築士 指定科目に該当する開講科目一覧(2021年度入学)[4b-13](EA)
項目 No. 0407	日本技術者教育認定機構による教育プログラム認定審査結果報告[4b-24](EA)
項目 No. 0406	学科独自の「学習達成度評価アンケート」、「卒業時アンケート」を学生に対して実施し、各授業の改善に活かす取り組みを行っている[4a-7][4a-8]。(EK)
項目 No. 0407	一部の研究室において、実験・演習を伴う教育プログラムのPDCAサイクルに関する卒業研究が行われており、授業内容改善のためのデータとして用いられている[4b-19]。(EP)
項目 No. 0407	演習授業における実践を含む情報系人材育成のために教育フレームワークに関する研究に対して科研費によるサポートを受けている。(EP)
項目 No. 0407	学科独自の外部評価である「アドバイザリーボード会議」を常設し、外部委員から意見を伺っている[2-3]。(EK)
項目 No. 0407	外部評価委員会によってカリキュラムの目指すべき方向に関して建築実務に関わる識者から意見を聞き、教育プログラムの改善に継続的に活かしている[4b-29]。(EA)

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み(予定)および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0406	学生のDP・CPに関する把握、理解不足
今後の改善・向上方策	
各学期始めのオリエンテーションにおいて、DP・CPを説明し、学生への周知徹底を図る。(EA)	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0406	実験・演習を伴う教育プログラムのPDCAサイクルに関する研究成果は学科内で共有されている。また、プログラミング教育における論理的測定問題の分析と基準の提案を卒業研究として新たにテーマ設定した。その提案に基づく調査を現在実施中である。(EP)
今後の改善・向上方策	
プログラミング教育における論理的測定問題の分析と基準の提案に基づいた調査について、調査対象を拡大していく。また、客観的プログラミングスキルの測定の調査も行い、大学生向けの測定問題の改善を行っていく。(EP)	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
【0405】学生の学習成果に関する学部における組織的な分析及び検討についてヒアリングにてその内容を

確認した結果、Ⅱ. 自己点検・評価『現状説明』の最終行「学生の学習成果について、学部として組織的な分析・検討は行えていない。」は、「学生の学習成果について、学部として組織的な分析・検討は行っていない。」と修正する。 【0404】シラバスに明記された「達成目標」「成績評価方法」に基づき、成績評価が行われている。卒業認定・学位授与についても、「卒業要件は明確に規定され」「学位論文審査基準は、卒業研究のシラバスに」明記され、審査基準をルーブリックにしている学科もある。ヒアリングを通じて、工学部にある各学科の分野は多岐にわたるため、ルーブリックを統一することは非常に難しいことがわかった。 【0405】シラバスに明記された基準に基づいて成績評価をし、進級状況は学科会議、教授会の資料によって確認・把握されている。卒業論文は卒業論文審査委員会で査読のうえ評価が審議され、評価されている。 【0406】全学的に実施される自己点検・評価や各教員による「教員活動重点目標・自己評価シート」の記入は毎年行われ、教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいる。また、一部の学科では、JABEE 認定は定期的に受けており、学生の「学習達成度評価アンケート」を実施して改善への取り組みを行っている。		
長所・特色		
【0404】一部の学科では、卒業論文の審査基準をルーブリック等で明確に規定しており、その点においては公平性、透明性を保つ点で評価できる。 【0406】一部の学科では、別途、外部評価の JABEE の認定を受けたり、学生に対して「学習達成度評価アンケート」を実施したり、取り組みに工夫がみられる。		
留意点	*各項に留意点レベルを記入	【A】緊急の改善を要する事項 【B】検討を要する事項
特になし		

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 工学部

基準 5 学生の受け入れ

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☑ 2022 年度課題事項 (0504) ☑ 2022 年度ピアレビュー結果 (留意点)	
項目 No. 0501	推薦入試の学力レベルを保持するための方策の検討が望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
推薦入試で入学する学生の学力保持については、入試制度の特性、学力の多様性などの観点から、入学前教育が重要となると認識している。 具体的状況は以下の通りである。 - 入学前教育の内容については毎年議論され、その内容に対する対象者の取り組み状況のデータをもとに、学科の教室会議において適正であるかの議論が年度毎に行われ、必要に応じて修正が行われている。また、「入試状況調査アンケート」の結果についても、学科教室会議で情報共有・議論を行い、「アドバイザーボード会議」においても、外部評価委員から意見聴取を行っている。[2-1] [2-3] (EK) - 一方で、入学者受入れの方針 (AP) は提示されているが AP の素養を必ずしも満たしていない学生が入ってくることもある。そのような学生は単位が取れなく卒業ができないため、入学時に見極めるようにしたいが、推薦の場合ほぼ合格するため、改善対策は内申点の見極めしかできない状況である [5-1] (EP)	

☑ 2022 年度課題事項 ☑ 2022 年度ピアレビュー結果 (留意点)	
項目 No. 0502	入学者受入れの方針 (AP) と入試形態の整合性、教育課程の編成・実施の方針 (CP) と学生募集方法、入学者選抜方法の連関を明確にする改善が望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
入学者受入れの方針 (AP) と入試形態の整合性、ならびに教育課程の編成・実施の方針 (CP) と学生募集・選抜方法との連関を確保することは、教育の質保証の観点から重要であると認識している。 具体的状況は以下の通りである。 - AP と入試形態の整合性、CP と学生募集方法、入学者選抜方法の関連性について、工学部の委員会を通じて議論する機会が与えられ、さらに教室会議での議論が行われ、必要であれば修正が行われている。また、「入試状況調査アンケート」を実施し、結果をまとめて、学科教室会議で情報共有・議論を行うとともに、外部評価委員会である「アドバイザーボード会議」においても現状報告のうえ意見聴取を行い、検証の参考にしている。[4a-6][4a-7] (EK) - 夢探究入試においては、募集要項において AP の明示、入試の選抜方法と学力の要素の関係を提示し明確化を図っている [5-2] (EP)	

☑ 2022 年度課題事項 ☑ 2022 年度ピアレビュー結果 (留意点)	
項目 No. 0503	定員設定を行い、定員管理がなされているが、収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応には改善すべき点が残されており、検討が望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
収容定員に対する在籍学生数の適正な管理は、教育環境の維持および教育の質保証において重要な要素であると認識している。学科単位での実態把握と議論を行いながら、改善策の検討を進めている。 具体的状況は以下の通りである。 学生募集から合格者判定を含む入学者選抜までの内容、休学者・退学者を減少させる方策、また、新入生に対する「入試状況調査アンケート」の結果を学科の教室会議メンバーで共有し、議論を行うとともに、外部評価委員からなる「アドバイザーボード会議」においても、各対応策について意見聴取を行っている。[4a-6] [4a-7] (EK)	

☑ 2022 年度課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0502	教育課程・学修成果の向上のためには教育課程を担う学科の方針が入学選抜により大きく反映されるべきであるが経営上の判断も重要となるため困難であると考えられる。(EM)
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
教育課程および学修成果の質を保証・向上させるためには、各学科が教育課程の編成方針（CP）や入学者受入れの方針（AP）に即した入学者の選抜を行うことが望ましいと認識している。一方で、入学者確保に関する観点から、学科ごとに柔軟な選抜方針を導入することには一定の制約があるのも事実である。このような状況を踏まえ、教育課程と入学選抜との整合性向上に向けて、課題の整理と議論を進めたい。	

☑ 2022 年度課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0502	入学者と入試形態は大学委員会で決定され学科の意向が反映されにくい。(EA)
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
入学者数および入試形態の決定は、全学的な委員会を通じて行われており、学科単位で柔軟な対応を行うのは困難な面があることは事実である。一方で、教育課程の設計と学生の受け入れが密接に関連することから、入学者受け入れ方針（AP）を入試形態に適切に反映させることは重要であると認識している。このような状況を踏まえ、まずは課題を整理する必要がある。	

☑ 2022 年度課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0503	学園ビジョンに鑑み、女子学生の入学率が高くなるよう広報活動などの努力・工夫が必要である。(EC)
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2024 年度に工学部・理工学部女子交流会を開催した。学部・学年・学科を超えてコミュニティを構築する場とすることや女子学生の疑問や不安を少しでも解消できることを期待して開催し、多くの女子学生にご参加いただいた。2025 年 4 月には第 2 回を開催しており、引き続き女子学生の入学率が高くなるような広報活動と入学後の女子学生が不安に思うことを解消できるような会の開催を検討する。 学科における取り組みとして、2028 年度の学科改組に向けて、入試内容や広報活動について検討しているところもある。(EC)	

☑ 2022 年度課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0503	収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応策
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
収容定員に対する在籍学生数の適正な管理は、教育環境の維持および教育の質保証において重要な要素であると認識している。学科単位での実態把握と議論を行いながら、改善策の検討を進めている。 具体的状況は以下の通りである。 ・ 学生募集から合格者判定を含む入学者選抜までの内容、休学者・退学者を減少させる方策、また、新入生に対する「入試状況調査アンケート」の結果を学科の教室会議メンバーで共有し、議論を行うとともに、外部評価委員からなる「アドバイザリーボード会議」においても、各対応策について意見聴取を行っている。[4a-6] [4a-7] ・ 毎年、学科内教員間で担当者を決め、高校訪問、模擬講義、高大連携イベント（実験講座など）に積極的に参画している。(EK)	

☑ 2024 年度課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0503	学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けた取り組み。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
入学者受入れの方針（AP）と入試形態の整合性、ならびに教育課程の編成・実施の方針（CP）と学生募集・選抜方法との連関を確保することは、教育の質保証の観点から重要であると認識している。 具体的状況は以下の通りである。 ・ 学生募集および入学者選抜の内容および入学前教育の内容については、工学部の委員会を通して、AP と入試形態の整合性、CP と学生募集方法、入学者選抜方法の関連性について、適正であるかを議論する機会が与えられ、学科の教室会議において審議され、確認と修正が行われている。また、新入生に対して「入試状況調査アンケート」を実施し、結果をまとめて、学科教室会議で情報共有・議論を行うとともに、外部評価委員からなる「アドバイザリーボード会議」においても、まとめられた結果をもとに意見聴取を行い、社会的ニーズを踏まえた学生募集かどうかの検証など改善に繋がる取り組みを行っている。[4a-6][4a-7] (EK)	

☑ 2024 年度課題事項 ☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0503	各種データを用いて学生の受け入れに関わる課題を整理し、具体的な対策を検討して実施する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
各種データを積極的に活用することでさまざまな課題を解決できる糸口を見出すことができると考えている。定量的な情報に基づいた議論が一部の学科で実践されている。 具体的状況は以下の通りである。 - 都市建設工学科では、指定校推薦枠の利用状況、各高校に対する評定平均値等のデータを整理することで、高校への広報活動に利用することを検討している。（EC） - 学生募集および入学者選抜の内容および入学前教育の内容については、工学部の委員会を通して、AP と入試形態の整合性、CP と学生募集方法、入学者選抜方法の関連性について、適正であるかを議論する機会が与えられ、学科の教室会議において審議され、確認と修正が行われている。また、新入生に対して「入試状況調査アンケート」を実施し、結果をまとめて、学科教室会議で情報共有・議論を行うとともに、外部評価委員からなる「アドバイザーボード会議」においても、まとめられた結果をもとに意見聴取を行い、社会的ニーズを踏まえた学生募集かどうかの検証など改善に繋がる取り組みを行っている。[4a-6][4a-7]（EK）	

☑ 2024 年度課題事項 ☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0503	高校教員との定期的な情報交換と状況把握
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
中部大学第一高等学校と工学部・理工学部との意見交換会を実施している。[5-3] 高校訪問、模擬講義、高大連携イベント（実験講座など）など高大教員間の交流の機会の活用し、情報交換の他、お互いの状況をより理解できるような取り組みをさらに進める。（EK）	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0501	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学生の受け入れ方針は、少なくとも学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程）に設定しているか。 (2)学生の受け入れ方針は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。 (5)すべての志願者に対して分かりやすく情報提供しているか。			
現状説明				
DP、CP を踏まえた AP を設定し、大学の HP、入学案内に公表している。AP を定期的に更新する仕組みが入学センターにあり、センターからの依頼を受け学科会議で審議している[5-1] [P5-1]。 学生募集および入学者選抜制度については、入試要項を定め、工学部入学者選抜委員会、全学の入試・選抜委員会で、透明かつ公正な選抜が実施されている。学費や奨学金などの情報は大学の HP で公表されている[5-2]。推薦入学者等に対する入学前教育の実施など AP に基づく教育課程の編成を行っている。[5-2]。				

評価項目	0502	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。	自己評価	A
評価の視点	学士課程全体および各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。			

現状説明
定員設定を行い、定員管理がなされているが、収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に対応するには改善すべき点が残されている [5-2]。入試・選抜委員会が組織され、入学センターで適切に運営管理されている。教授会にて各種データを確認して状況を把握している[5-4]。ただし、女子学生比向上に向けた広報活動や、ST 比、点検・評価に資する個別情報・IR データの学科との情報共有については改善の余地がある。 女子学生向けイベントとして、2024 年度に工学部・理工学部女子交流会を開催した。学部・学年・学科を超えてコミュニティを構築する場とすることや女子学生の疑問や不安を少しでも解消できることを期待して開催し、多くの女子学生にご参加いただいた。特に女子の比率の低い学科の学生が他学科の女子学生と交流できる機会を設けることによって学習のモチベーションを上げる工夫をしている。引き続き女子学生の入学率が高くなるような広報活動と入学後の女子学生が不安に思うことを解消できるような会の開催を検討する[5-5] [5-13]。

評価項目	0503	学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明	教授会にて IR データを確認して、AP に基づく入学者選抜を公正に実施している。新入生に対して「フレッシュマンテスト」などを実施し、その分析結果を教授会で情報共有を行っている[5-6]。外部評価委員会である「アドバイザリーボード会議」においても現状報告のうえ意見聴取を行い、社会的ニーズを踏まえた学生募集であるかの検証を行っている。 推薦入試合格者については、入学前教育の結果報告を実施会社から詳細に受けており、それによって入学者の学力状況を把握している [5-7]。また、入学前教育のあり方検討ワーキンググループにおいて、入学前教育の申し込み率、学生の意識調査等の IR データに基づく入学前教育の自己点検・評価を全学的に実施しており、その内容は教授会において学部全体に広く共有されている。入学者受入れの方針 (AP)に基づく入学者選抜を公正に実施している。 具体的状況は以下の通りである。 ・ 新入生に「入試状況調査アンケート」を実施し情報共有・議論を行うとともに、外部評価委員会においても現状報告のうえ意見聴取を行い、社会的ニーズを踏まえた学生募集であるかの検証を行っている。また、学科の魅力発掘の活動として、学科会議で各教員の活動の情報共有（研究活動、教育活動、社会貢献の紹介）を行い、広報のシーズとして活用を試みている [4a-4][4a-5][4a-6][4a-7]。(EC、EK) ・ ポートフォリオ入試（2024 年度から夢探究入試）については、AP に基づいて学科独自の課題を設定し実習を行い、入試結果について教室会議で検証を行っている [5-1][5-2]。(EP) ・ 夢探究入試で実際の建物を観察させそれを立体的にスケッチで表現させるという学科独自の課題を課し、形態や空間認識に優れた入学者を選抜できるようにすると同時に、受験生にあらかじめそうした勉強に取り組むよう伝えている。(EA) ・ 入学前教育で学科の適正を考慮し、ロジカルライティングの教材を導入した。建築学科に適した入学者の有るべき姿をより明確にするため、AP の見直しを行っている[5-8]。(EA) ・ 入学前教育に関して、より基礎的な問題に変更して入学者からのコメント等に対応した。[5-9] (EL) ・ 応用化学科独自で「化学」のフレッシュマンテストを実施しており、結果については教室会議などで学科内教員間での情報が共有されている。また、結果が思わしくなかった学生については補習授業を実施している。[5-10] (EK)			

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》
項目 No. 0503 推薦入試において、AP に基づく人材確保のための選考基準の見直しを実施[5-1]。

項目 No.0503	「アドバイザーリーボード会議」等による学科独自の外部評価を行っている[2-3][4a-4]。(EC、EK)
項目 No.0503	学科が所有する教育・研究のシーズを高校生へアピールするために学科会議で各教員の活動の詳細について情報共有を行っている[5-11]。(EC)
項目 No.0503	入学前教育において文書作成力、読解力の向上に注力している（建物訪問レポート及び建築図書の読後レポートの提出と教員による添削、ロジカルライティング教材の導入[5-8]）(EA)
項目 No.0503	入学前教育での建物訪問レポート及び建築図書の読後レポートを提出させ、教員による添削を行って入学時に返却し、今後の学習のモチベーション向上に役立てている[5-12]。(EA)
項目 No.0503	学科独自に新入生に対して「入試状況調査アンケート」と「フレッシュマンテスト（化学）」を実施し、結果について学科内教員間で共有するとともに、補習授業も実施している。[4b-3][5-10]。(EK)
項目 No.0504	数学のフレッシュマンテストにおいて入試種別ごとの得点分布を検証し、学生募集戦略、選考基準の見直しに反映している[5-6]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0501	学生募集および入学者選抜の制度や運営体制
今後の改善・向上方策	
入試種別による学生のその後の成績推移、休学や退学の比率などを追跡することによって、入試種別での比率の見直しにつなげる。(EA)	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No.0503	点検・改善に資する個別情報・IR データが学科に提供されていない (EK) 高校教員との交流 (EK)
今後の改善・向上方策	
点検・改善に資する個別情報・IR データを入手する努力を行い、それを有効活用する。現状で活用が十分にできていないフレッシュマンテスト（英語、数学、物理）の結果について、学科教員間で議論を行い、「アドバイザーリーボード会議」においても、外部評価委員から意見聴取を行う。(EK) 高校訪問、各種イベント、模擬講義など高大教員間の交流の機会の活用し、情報交換の他、お互いの状況をより理解できるような取り組みをさらに進める。(EK)	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
【0501】ヒアリングの結果、Ⅱ. 自己点検・評価『現状説明』の2行目根拠資料[5-1]を差し替える。 【0502】ヒアリングの結果、Ⅱ. 自己点検・評価『現状説明』の最終行「開催を検討する[5-5]」に根拠資料[5-13]を追加する。 【0503】ヒアリングを通じて、フレッシュマンテストを効果的に活用していることがわかったことから、Ⅱ. 自己点検・評価『現状説明』の1行目「新入生に対して「フレッシュマンテスト」などを実施し、その分析結果を教授会で情報共有を行っている[5-6]。」は、「新入生に対して「フレッシュマンテスト」などを実施し、入試種別ごとの得点分布を検証し教授会で情報共有している。またそれを、学生募集戦略、選考基準の見直しに反映している[5-6]。」と修正する。 【0501】DP、CPを踏まえたAPを設定し、大学のHP、入学案内に公表している。学生募集および入学者選抜制度については、入試要項を定め、工学部入学者選抜委員会、全学の入試・選抜委員会で、透明かつ公正な選抜が実施されている。学費や奨学金などの情報は大学のHPで公表されている。 【0502】女子学生比向上に向けた広報活動や、ST比、点検・評価に資する個別情報・IRデータの学科と

の情報共有については改善の余地がある。女子学生向けイベントとして交流会を開催しており、引き続き女子学生の入学率が高くなるような広報活動と入学後の女子学生が不安に思うことを解消できるような会の開催を検討している点は高く評価できる。 【0503】教授会にて IR データを確認して、AP に基づく入学者選抜を公正に実施している。新入生に対して「フレッシュマンテスト」などを実施し、その分析結果を教授会で情報共有を行っている。外部評価委員会である「アドバイザリーボード会議」においても現状報告のうえ意見聴取を行い、社会的ニーズを踏まえた学生募集であるかの検証を行っている。	
長所・特色	
【0503】学科によっては独自に、「アドバイザリーボード会議」等による学科独自の外部評価を行ったり、新入生に対して「入試状況調査アンケート」や「フレッシュマンテスト」を実施したり、社会的ニーズや学生の受け入れに関する情報を精確に掴むことにより、学生募集や入試の在り方の見直しに活かしている。	
留意点 *各項に留意点レベルを記入 【A】緊急の改善を要する事項 【B】検討を要する事項	
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
[P5-13]	【最終版】実施概要・アンケート集約_女子交流会_241030	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 工学部

基準 6 教員・教員組織

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☑ 2022 年度課題事項 ☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0602	教育理念・目的を実現できる教員組織に関する点検と改善。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
教室会議・専攻会議に続いて随時開催する「学科人事委員会」が教員組織の適切性（教育理念・目的を実現できるか？）に関する議論の場となっており、専攻・学科の教員構成（年齢や分野）、学科人事計画などを策定し、点検・検討を行っている [6-1]。(EK) 全学科について1教員あたりの学生数が非常に多い状態が続いており、早急な対策が必要である。	

☑ 2022 年度課題事項 ☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0603	教員人事の適切性に関して、募集、採用段階での透明性、公平性の確保。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
各学科で採用できる教員数に上限値がある。教育の質を維持・向上させる観点から、教員上限数を維持できるように、各学科の採用計画を検討する必要がある。 都市建設工学科では、教員採用募集において若手教員を公募し、D○合教員全員による候補者の面接を実施している。2025 年度に若手教員を採用した。 教室会議・専攻会議に続いて随時開催する「学科人事委員会」において、教員人事の適切性に関しては、募集、採用段階での透明性、公平性の確保について議論が進められている段階である。(EK) 募集・採用段階において教室会議にて逐次報告・確認する。(EP)	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0601	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。	自己評価	B
評価の視点	(1)大学として求める教員像や教員組織の編制方針に基づき、教員組織を編制しているか。 ※具体的な例 ・教員が担う責任の明確性。 ・法令で必要とされる数の充足。 ・科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成。			

	・各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理。 ・複数学部等の基幹教員を兼ねる者について、業務状況や教育効果の面での適切性。 (2)クロスアポイントメントなどによって、他大学または企業等の人材を教員として任用する場合は、教員の業務範囲を明確に定め、また、業務状況を適切に把握しているか。 (3)教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現しているか。 (4)授業において指導補助者に補助または授業の一部を担当させる場合、あらかじめ責任関係や役割を規程等に定め、明確な指導計画のもとで適任者にそれを行わせているか。
現状説明	
人事審議会での資格審査を通じて、適切な専任教員数の確保、教育理念・目的を実現できる教員組織の編制に努めているが、改善すべき点もある。 具体的状況は以下のとおりである。 ・ 教室会議・専攻会議に続いて随時開催する「学科人事委員会」が教員組織の適切性に関する議論の場となっており、専攻・学科の教員構成（年齢や分野）、学科人事計画などを策定し、点検・検討を行っている [6-1]。(EK) ・ JABEE に対応した教員組織の適切性についての自己点検・評価を行っている学科もある [2-8]。(EC) ・ 1 教員あたりの学生数が非常に多い状態が続いており、早急な対策が必要である。(EP) ・ 新規教員の採用に当たっては、専門の分野に偏りがないように行っている。一方、年齢構成については、50 代以上の教授の割合が高いため、若手の講師、助教の採用が望まれる。(EP)	

評価項目	0602	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準および手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っているか。 (2)年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っているか。また、性別など教員の多様性に配慮しているか。			
現状説明				
教員人事関連規程が整備され、昇格に関する評価基準を、研究業績、教育業績等に関してポイント化により明確にし、必要に応じて見直している。人事審議会から提供される年度毎の人事に関する手続きについての書類に基づき、適切な手続きによる運用が行われているが、教員人事の適切性に関して改善の余地がある[6-2] [6-3][6-4]。 具体的状況は以下の通りである。 ・ 分野によっては若手人材が不足しているので、学科の卒業生で特に優秀な学生を候補として若手教員の育成に積極的に取り組んでいる。(EA) ・ 教員募集においては、候補者の選定について教室会議で報告・承認を経ることで、公平性に配慮した手続きを行っている。教室会議では年齢構成・多様性についても議論している[6-5]。(EP)				

評価項目	0603	教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発および改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。 (2)教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。 (4)教員以外が指導補助者となって教育に関わる場合、必要な研修を行い、授業の運営等が適切になされるよう図っているか。			
現状説明				
教員の教育・研究・社会活動については教員活動重点目標・自己評価シート等で自己評価を実施している[6-6]。教育活動優秀者による講演会を工学部FD講演会として行い、教育活動の改善等に役立てている[4a-9]。 具体的状況は以下の通りである。 ・ 研究成果を礎にマスコミを利用した情報発信を行う教員もいる[6-7]。 2022 年度より応用化学科では、「創成実習の新しい取り組み」として、コロナ禍において企業に出向く実習が難しい状況を経て、学内実習と企業における議論のハイブリッド方式を採用して実施してきた [6-8]。(EK) ・ 学会内で外部講師を招聘した FD 講演会を実施している。[6-9](EP)				

評価項目	0604	教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	B
評価の視点	(1)教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
教員組織の適切性についての自己点検・評価に取り組んでいるが、その成果が改善に必ずしも結びついていない[2-1]。 教室会議において現在の教員組織の問題を共有し、将来あるべき教員組織について検討している [6-5]。(EP)				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No.0603	昇格に関する評価基準を、研究業績、教育業績等に関してポイント化し明確にしている[6-3]。
項目 No.0602	JABEE に対応した点検評価が行われており、その中で、教員組織の適切性についての自己点検・評価も行われている[2-1]。
項目 No.0604	近隣他大学の教員組織に関する資料を収集し、それらを参考に中部大学情報工学科の在り方について議論している[6-5]。(EP)

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No.0601	教員組織の適切性（学内中央組織との兼任教員が多い）(EK)
今後の改善・向上方策	
応用化学科では、学内中央組織の役職（副学長、キャリア部長、学生副部長など）を兼任する教員が増えており、学科内で必要な業務を遂行するための教員が不足する状態となっている。若手教員の早期採用について早急に検討を行いたい。(EK) 1 教員あたりの学生数が多い学科であるため教員数は決して十分ではない。このため教員を充足する課題はあるが、とくに力量の高い若手教員を充足することが課題である。現在、採用の人数、分野等について、学科内の議論を進めている。(EP)	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022~2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 工学部

基準 7 学生支援

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項 ☒ 2022 年度ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0702	自己点検・評価シートの各欄には、可能な限り全ての学科の取り組みが記載されることを希望する。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
自己点検・評価シートの作成にあたっては、すべての学科に記入を依頼し、各学科の回答内容を工学部で集約のうえ、教授会において全体確認および承認を経て提出している。提出内容については全学科で共有・確認されたものであり、工学部全体の方針および共通認識に基づくものであると考えている。 ただし、各学科においては、学科ごとに教育環境や学生の状況、教育課題が異なることから、すべての課題に対して一律に特徴的な取り組みを実施・記載することが困難な場合もある。例えば、ST 比の問題や学生の多様性の広がりなど、学科固有の課題に対応する中で、取り組みの重点や具体的な内容は自ずと異なるものとなる。 このような実情を踏まえ、自己点検・評価のプロセスを通じて各学科の現状と課題を明らかにし、それぞれの学科に応じた改善・向上の取り組みへとつなげていきたい。引き続き自己点検・評価シートを作成する際には各学科には可能な限り各欄に取り組みを記入することを働きかけたい。	
☒ 2022 年度課題事項 ☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0702	個人面談結果、設定した将来目標についての教員間での情報共有の徹底とよりの確な支援。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
個人面談等で得られた情報を教員間で共有し、指導に活かす体制づくりを進めている。学生のキャリア形成や進路支援に関する情報の共有も実施されている。 具体的状況は以下の通りである。 ・ ポートフォリオ面談など個人面接の結果は学科共通室に保管され、随時各教員が閲覧可能な状態となっている。就職支援関係については Google Classroom 内のクラスとして「EK&TK 就活情報」を設置し、学科・専攻の就活情報・インターンシップ情報を集約し、学生・教員間で情報の共有を行っている。また、学部 4 年生および修士 2 年生に対して研究室毎に各指導教員が毎月面談を行い、「就職活動状況表」を提出することにより、学生への適切な指導と教員間での情報の共有を可能にする体制をとっている。[7-1][7-2][7-3][7-4] (EK) ・ 教室会議において随時報告またはメールによる情報共有を行っている[7-1]。(EP)	
☒ 2022 年度課題事項 ☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0702	学生の多様化に対応するための補習教育・補充教育について具体的に検討していく。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
入学者の多様化に伴い、学修状況や学力に応じた柔軟な支援の必要性が増していることを踏まえ、補習教育・補充教育の充実に取り組んでいる。 具体的状況は以下の通りである。 ・ ポートフォリオ面談などの個人面接や各学科専門科目の「学習達成度評価アンケート」を学科独自で行い、その結果を活用して授業内容の改善や補習教育・補充教育が必要な学生への個別の指導も検討している。[7-5][7-6] (EK) ・ 学科独自に大学院生を雇用し、支援を必要とする学部生に対して個別学習指導を定期開催している[7-7][7-8]。(EA, EP)	

☑ 2022 年度課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0702	退学に直結する「プログラミングにおけるつまずき」、「実験レポートの作成力の不足」に対する補習教育、補充教育の実施。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
退学の一因ともなり得る「プログラミングにおけるつまずき」や「実験レポートの作成力の不足」といった学修上の課題に対し、早期発見と支援が不可欠であると認識している。 具体的状況は以下の通りである。 「実験レポートの作成力の不足」に対する補習教育、補充教育のため、学科専門科目の実験の授業においてレポート指導の授業回を設けている。その他、各授業回の実験後およびレポート提出後においても、レポート作成力の不十分な学生に対して TA の協力を得ながら適宜個別指導を行っている。(EK) - 学科独自に大学院生を雇用し、支援を必要とする学部生に対して個別学習指導を定期開催している[7-7]。(EP)	

☑ 2022 年度課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0702	学科の S/T 比が高く、学生への支援が十分になっていない可能性がある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
各学科で採用できる教員数に上限値があるため、ST 比の大幅な改善には今後も期待できる状態ではない。工学部は実験や実習など複数教員で実施する必要がある科目が多いため、教員の負担が大きい状態が続いている。しかしながら、教育の質を維持・向上させる観点から、教員上限数を維持できるように、各学科の採用計画を検討する必要がある。 具体的状況は以下の通りである。 - 学生支援の充実のため、学科内の学問分野別の教員数、学科教員の年齢分布などを分析し、学科の S/T 比を下げられるように今後の教員採用計画を検討する。(EK) - 学科独自に大学院生を雇用し、支援を必要とする学部生に対して個別学習指導を定期開催している[7-7]。(EP)	

☑ 2022 年度課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0702	成績不振学生への早期対応と不振要因の分析・抽出。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
取得単位数の少ない学生について、担当の指導教授が面談を行い、学科ごとにとりまとめて教務支援課に提出している。個別面談や会議体を通じて学生の状況を把握し、教員間での情報共有や場合によっては学内関係部署との連携をとることで、きめ細かな対応をとっている。 具体的状況は以下の通りである。 - ポートフォリオ面談などを通じて指導担当教員と学生間の情報交換を行い、特に成績不振学生についてはその情報（不振原因と現状での対応）を教員間で教室会議などを通じて共有できるようにしている。また、きめ細やかな対応が行えるように学科教員、学習支援室、学生相談室間の連携を深められるようにする。(EK) - 指導教員による個別面談と報告を適時促している。また、教室会議においても適時状況共有を行っている。(EP)	

☑ 2024 年度課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0702	学生支援の適切性について定期的に自己点検・評価を行う仕組みを確立し、改善することにより支援をより充実していく。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学生支援の適切性について、特徴的な取り組みを実施する学科の具体的状況は以下の通りである。 - 学生の適切なタイミングで様々な支援を可能にする体制について学科所属教員による教室会議において議論を行っている。また、学科独自の「アドバイザーボード会議」において、支援体制の適切性について外部委員からの意見聴取を行っている。[7-4] (EK) - これまでと同様、教室会議・メール会議によって定期的な点検・評価を行っている。(EP)	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0701	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。	自己評価	A
評価の視点	(4) [修学支援（学習面）] 学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備しているか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等） (5) [修学支援（学習面）] 障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っているか。 (6) [修学支援（学習面）] 学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応しているか。 (8) [修学支援（学習面）] ICT を利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っているか。 (10) [生活支援] 学生の心身の健康、保健衛生等に関わる指導相談を、学生の実態に応じて行っているか。 (11) [生活支援] 学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（学生の交流機会の確保等）を必要に応じて行っているか。とりわけ ICT を利用した遠隔授業を行う場合において配慮しているか。 (12) [進路支援] 各学位課程（学士課程、修士課程や博士課程など）や分野等における必要性、個々の学生の特性等に応じ、就職支援のほか、職業的自立に向けたキャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援を行っているか。 (13) [その他支援] ボランティア活動・部活動等の正課外における学生の活動への支援など、必要に応じた支援を行っているか。 (14) [学生の基本的人権の保障] ハラスメント防止、プライバシー権の保障や苦情申立への対応など、学生の基本的人権の保障を図る取り組みを行っているか。			
現状説明				
評価の視点ごとに具体的状況をまとめると以下の通りである。 [修学支援] ・ 学年ごとの指導教授制、キャリア・就職担当教員、インターンシップ担当教員において、学生の生活・進路に関する適切な支援を行うとともに、各学期はじめの学年別の個人面談、成績不振者・退学希望者・休学者の把握・指導を実施している。学部生に身近な存在である大学院生を TA や学習相談員として採用し、学生の補習教育を支援している学科もある [7-7][7-8]。 ・ PSH の時間帯を利用し、教員が輪番制で学生の教育、生活支援を積極的に行っている。その結果に関する情報は学科会議で共有を図る体制をとっている。特に支援を要する学生（障がいのある学生、退学希望者、成績不振の学生等）に対しては必要に応じて教務支援課、学生支援課からのデータに基づき、指導教授を中心に個別面談も含めて適切に対応し、教室会議での情報共有により学科教員全体で修学支援および指導を行っている。教室会議における学生の異動の状況と内容の全教員による把握、独自のポートフォリオによる全学生に対する毎学期の個人面談の実施、教員による学習支援室での基礎教育支援を実施している学科もある [7-9] [7-10][7-11]。 [生活支援] [学生の基本的人権の保障] ・ PSH の時間を利用するなどして学生の相談に応じる体制の整備、ハラスメント防止のための体制の整備および啓発活動、心身の健康維持・増進および安全への取り組みに関しては学生相談室と連携して対応しており、結果に関する情報は学科会議で共有するなどしている[7-12]。スタートアップセミナーにて、大学で整備されているハラスメント窓口を案内するなどしている学科もある。 [進路支援] ・ 各学科、就職に関するやり方は種々であるが、就職担当を組織化し、研究室ごとの就職状況調査を毎月行う、定期的に就職担当会議を開催する等で学生の動向の早期把握と全教員による情報共有し				

ている学科や1年、3年時に学生が将来目標を設定するようにし、学習支援、就職指導に反映する学科もある。 ・ 学科の共通室が、学生への窓口やデータの集計、教員間連携のハブ機能などの重要な役割を果たしている。工学部では取り扱う求人情報の件数が非常に多く、キャリア支援課と協力して各企業との対応や情報整理を共通室が担当することで、学生に対するタイムリーかつ的確な進路支援が可能となっている。このような体制により、毎年高い就職率を維持しており、全国的にも上位の実績を確保している。 ・ 求人企業データベースを毎年作成更新して学科の就職掲示板・就職資料室と共に運用しキャリア支援の充実を図っている[7-13][7-14][7-15][7-16][7-17][7-18]。これにはS/T比も低くしないと十分な機能を発しない。 ・ 学科独自の就職キックオフの実施や3年生の秋学期に就職ガイダンスの実施、企業による就職説明会・研究会等の実施や学科独自の就職説明会、OBの講演会、留学生向け就職研究会の実施を行っている学科もある。 ・ 授業としてのインターンシップ科目受講、企業からの個別のインターンシップ情報を学生に提供して参加を促している。 ・ 実習授業での企業訪問やインターンシップを行っている学科もある。 ・ Google Classroom内のクラスとして「学科就活情報」を立ち上げ、学科・専攻の就活情報・インターンシップ情報を集約し、リアルタイムで閲覧できる体制を作り支援を行っている学科もある[7-1][7-19][7-20][7-21]。(EA, EK, EL)。	
--	--

評価項目	0702	学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
学生支援の適切性については PDCA サイクルによる定期的な自己点検・評価と改善・向上が、学科会議等で議論されていることに加え、以下に示すように行われている。 ・ 都市建設工学科には、年 2 回（8 月と 3 月）に開催されるカリキュラム検討委員会と教育支援検討委員会が設置され、カリキュラム検討委員会では主に教育プログラムを議論し、教育支援検討委員会では教育支援に関する項目の点検・評価・改善を行っている [7-22] [7-23]。その情報や成果は学科会議 [7-24] で報告され、学科教員全員に共有されると共に、対策が検討される。2022-2024 年度の具体的な活動として、カリキュラム検討委員会では、1 級土木施工管理技士の受験資格要件の変更を踏まえ、資格取得を支援する補講を検討し、2024 年度から実施している [7-25]。また、教育支援検討委員会では、各学年に対する面談などの教育項目が適切に行われていることを確認し、学習教育到達目標の達成度評価エクセルシートについては、1 年生～3 年生は Google Classroom を活用するが、最終年となる 4 年生は研究室教育が集め指導を行うなど、運用法が設定された。(EC) ・ 建築学科では大学院生の CAD・学習相談員による学生の補習教育の支援を継続している[7-8]。(EA) CAD・学習相談員のシステムを継続させ、在学生に周知する CAD・学習相談員のシフト表に各曜日と時間を担当する大学院生の所属、専門分野、得意な科目、習熟しているソフト名などを記載し、たとえば構造が苦手な学生は誰に相談すればよいのか一目でわかるようにして、より細やかな指導ができるように工夫している。(EA) ・ 学期毎に指導教員により行われるポートフォリオ面談等の個別指導、各種奨学金手続きなどの学習および生活支援、Google Classroom 内での「応用化学科&応用化学専攻就活情報」発信、学部 3 年生、修士 1 年生に対する就職説明会としての「就職キックオフ」開催および学部 4 年生および修士 2 年生に関する「就職活動状況表」作成などの就職支援、PSH の時間を利用した甲種危険物取扱者など資格取得を支援する講座の積極的な実施、「卒業時アンケート」の結果の検証、その他「学習達成度アンケート」等も含め、学生の適切なタイミングで様々な支援を可能にする体制について学科所属教員による教室会議において議論を行っている。また、「アドバイザーボード会議」においても、支援体制の適切性について外部委員からの意見聴取を行っている [7-1] [7-2] [7-3] [7-4] [7-5] [7-6]。(EK) ・ レポートや論文の書き方の指導の一環として、情報工学科の授業「スタートアップセミナー」において 1 年生の日本語読解力調査を行い、日本語によるライティング・プレゼンテーション指導に利用している [7-26][7-27]。授業全般に対して、積極的に質問できない学生や配慮申請を行った学生向けに、「情報工学科学習支援室」を 2023 年度秋学期から実施している [7-28]。(EP) ・ 全学年を通じて学科専門科目が実施されない時間帯を設け、学科独自で学生からの相談等を受ける				

「質問の時間」を実施している [7-29]。(EL)

- ・ 2024 年度に工学部・理工学部女子交流会を開催した。学部・学年・学科を超えてコミュニティを構築する場とすることや女子学生の疑問や不安を少しでも解消できることを期待して開催し、多くの女子学生にご参加いただいた。特に女子学生の少ない学科にとっては、他学科の女子学生と交流できることによって孤立を防ぎ、学ぶモチベーションを上げられるように工夫している[5-5]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0702	各学期はじめの学年別の個人面談の実施。
項目 No. 0702	学科独自の「学習達成度評価アンケート」の実施 [4a-8] [7-5]。(EK)
項目 No. 0702	日本語読解力調査テストの活用 [7-27] (EP)
項目 No. 0702	大学院生、教育技術員による CAD・学習相談員制度[7-8]。(EA)
項目 No. 0702	学科独自の学習支援室[7-7] [7-28] (EP, EL)
項目 No. 0702	学科独自の就職キックオフ・企業説明会・企業情報発信の実施、就職活動状況表の作成、甲種危険物取扱者など資格取得支援講座の実施[7-2] (EK)
項目 No. 0702	学科独自のキャリア支援・就職指導体制を構築・運用している[7-13][7-14][7-15][7-16][7-17][7-18]。(EM)
項目 No. 0702	卒業生による講演会（実務セミナー）[7-19] (EA)
項目 No. 0702	卒業生へのアンケートの実施 [7-3]。(EK)
項目 No. 0702	工学部女子会の開催[5-5]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0702	大学院生による CAD・学習相談員のシステム
今後の改善・向上方策	
建築学科のワークショップでは、全学年の学生が同じ場を共有していることで先輩と後輩の交流が自然に生まれている。CAD・学習相談員における相談員を大学院生だけでなく学部の上級生も含めることも検討したい。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0702	プレゼンテーション能力の向上 (EK)
今後の改善・向上方策	
学科専門科目の授業の中で、学生がプレゼンテーション能力を向上するための機会が未だ不足気味と考えられるため、それに関係する補習教育、補充教育の充実を検討する。(EK)	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0702	ディスカッション能力の向上
今後の改善・向上方策	
学科専門科目の授業の中で、学生がディスカッション能力を向上するための機会が未だ不足気味と考えられるため、それに関係する機会の充実を検討する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
【0702】ヒアリングにより、Ⅱ. 自己点検・評価『現状説明』の11行目「最終年となる4年生は研究室教育が集め指導を行うなど」は文意が通らないため、「最終年となる4年生は研究室教員が集め指導を行うなど」と修正する。 【0702】ヒアリングを通じて、Ⅱ. 自己点検・評価『長所・短所《箇条書き》』の1行目「各学期はじめの学年別の個人面談の実施。」は、文章表現が不明瞭であることから「最終年となる4年生は研究室教員が集め指導を行うなど」と修正する。 【0701】様々な手立てやルートを通じて、学生の修学支援・生活支援・進路支援を行っている。学部生に身近な存在である大学院生をTAや学習相談員として採用し、学生の補習教育を支援している学科もある。 【0702】学生支援の適切性についてはPDCAサイクルによる定期的な自己点検・評価と改善・向上が、学科会議等で議論されている。	
長所・特色	
【0702】電気システム工学科・電気電子システム工学科における「質問の時間」は非常に先駆性がありとても良い取り組みである。また、各学期はじめの学年別の個人面談を実施したり、工学部・工学研究科の女子学生の交流会を催したりするなど、学生の不安を解消し細やかな支援を行っている様子が見られる点も評価できる。	
留意点	*各項に留意点レベルを記入 【A】緊急の改善を要する事項 【B】検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学部
--------	-----

基準 8	教育研究等環境
------	---------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ 2022 年度ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0802	実際の予算配分状況により既存施設の点検に基づく老朽化施設、設備の計画的な更新が十分にされておらず、改善が求められる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
老朽化した施設・設備の計画的な更新に向けて、各学科の要望を学部で集約し、学部等重点事業計画案や中期予算調査票として提出している。これらの要望に対しては、必要性や緊急性を踏まえた優先順位を考慮しているが、最終的な採否や配分については学部の判断を超える部分も多く、十分な対応が困難な場合もある。 具体的な学科の取り組みは以下の通りである。 学科内での教室会議等で、既存施設の点検、それに基づく老朽化施設、設備の計画的更新について話し合わせ、教育研究に係る中長期予算票および学部等重点計画案をまとめている。[8-1][8-2] (EK)	

☐ 課題事項	☒ 2022 年度ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0806	教育研究等環境に関して、外部評価委員による評価、学部内の安全管理委員会、非常勤講師懇談会、卒業時アンケートなどに基づき、適切に自己点検・評価を実施し、適切に改善・向上に取り組もうとしているが、実際の予算配分状況により、改善すべき余地がある。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
実際の予算配分が希望通りになるとは限らないが、各学科からの要望を踏まえて中長期的視点で学部等重点事業計画案や中期予算調査票を作成し、教授会での議論を経て、全学に提出している。 具体的な状況は以下の通りである。 - 教育研究等環境の適切性についての自己点検・評価を実施し、それに基づく改善を推進する。特に、教育研究に係る中長期予算票および学部等重点計画案についてさらによく議論を行うようにする。(EK) (EM) - 非常勤講師懇談会の開催、卒業時のアンケートに基づいた自己点検・評価を実施し改善をする[2-2][2-4]。(EP)	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0803	研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。	自己評価	B
------	------	---	------	---

評価の視点	(2)研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程を定め、かつ、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っているか。
現状説明	
教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実については、中長期予算票および学部等重点計画案を策定し、学長ヒアリングを受け、施設・設備の充実に向けた検討と設備更新を依頼している [8-1][8-2]。	

評価項目	0804	教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教育研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、教育研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
教育研究等環境の安全性や適切性について、外部評価やアンケート等を通じて現状を把握し、必要に応じて改善に取り組んでいる。 具体的状況については以下の通りである。 - 安全管理委員会、学科外の委員による外部評価委員会、非常勤講師懇談会、および卒業時アンケートを通じて教育研究等環境の適切性や安全性について評価をいただき、学科会議にて情報共有を行った上で改善に努めている[2-1] [2-2] [2-4]。学科授業科目のコロナ対応に関しては、講義形態に応じた感染対策を各学科会議にてしている。一方、全学的な授業に関しては、意見や必要性を反映させる仕組みが存在しておらず、コロナ対応に適った教室収容定員や視聴覚・照明設備等に不足がある。また、複数の学科・専攻が共同で実験室を使う等の対応をしている。 - 毎年、応用化学科では局所排気装置ドラフトチャンバーの安全性確認を全実験室に対して義務化している。化学を専門とする学科に特有な教育研究環境の改善につなげている。[8-3] (EK) 0804(2) 非常勤講師との懇談会において情報を共有し、教室会議において情報共有し改善に努めている[2-2]。(EP)				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0802	ShopBot を導入し、学生のものづくりへの興味を高めるための環境を整備した。(EA)

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0804	外部からの意見収集
今後の改善・向上方策	
非常勤講師との懇談会の他、外部機関からの意見を収集し改善に努める[2-1]。(EP)	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
レビューなし

長所・特色
留意点 *各項に留意点レベルを記入 【A】緊急の改善を要する事項 【B】検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
 ●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
 △：現部署で保管

|

2025 年度 (対象年度 2022~2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 工学部

基準 9 社会連携・社会貢献

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ 2022 年度ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0902	社会連携・社会貢献に関する取り組みが一部の教員に偏りがあることについて、改善のための検討が必要である。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
地域社会や産業界との連携、次世代人材の育成、高大連携などを通じて社会貢献に取り組んでおり、教員個人の専門性に基づいた活動が多様に展開されている。一方で、こうした取り組みが一部の教員に偏っているとの指摘もあり、より広範な教員による参画を促すための方策が求められている。 具体的状況は以下の通りである。 ・ 学科内での教室会議資料、教授会等で各教員の社会連携・社会貢献に関わる活動状況について情報共有を行っている。今後は必要に応じて教員間の連携についてもさらなる検討を行う（特に学生募集に関わる高大連携イベントなど）。[9-2] (EK)	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0901	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。	自己評価	A
評価の視点	(1)社会連携・社会貢献に関する方針のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っているか。 (2)社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっているか。			
現状説明				
教育研究活動を通じて得られた知見を積極的に社会に還元し、地域との連携や次世代人材の育成、産業界との協働など、多岐にわたる社会貢献活動を展開している。 具体的状況は以下の通りである。 ・ 積極的に学会活動を行っているほか、多くの教員が企業や研究所（例えば産業技術研究所・中部センター）との共同研究を推進している。その活動は大学企画室、研究支援課等に年次報告し、「教育・研究活動に関する実態資料」は大学企画室から発刊されている[9-3]。 ・ 高校生向けのロボットコンテストである中部大学学長杯争奪 CU-Robocon を継続的に学部行事として実施している。この取り組みは WRO Japan 全国大会の公式予選会として位置づけられている[9-4]。 ・ COC+事業に積極的に参加し、地域に貢献する研究活動を行うとともに、地域創成メディエーターの取得を奨励している [9-5]。				

- ・ 建築学科の教員は東海圏の自治体から依頼されて、まちづくり、景観審査、学校や庁舎といった公共建築の審査委員を依頼されることが多く、公共の都市・建築環境の向上に大きな貢献をしている。(EA)
- ・ 地域交流の一環として、毎年中部大学大学祭にて創造理工学実験教育科の教員および科学・物理実験会(SPE)の学生で「おもしろ科学教室」を開催し、地域の住民や子ども達に、実際に講義で実施している実験の一部を体験してもらい、実験の楽しさ・面白さを広めている[9-6]。
- ・ 将来を担う人材育成という観点から、電子情報通信学会、教育委員会と連携、「子供科学教室」を開催、科学技術の喜びを本学学生とともに国内地域の小学生に教えた[9-7]。(EP)
- ・ 小学生向け「ジュニアセミナー」の工学部教育による講座は、毎回人気を博している[9-2]。
- ・ 毎年、中部大学大学祭にて応用化学科の教員および学生で「七宝焼き教室」(研究発表展)を開催し、毎回人気を博している[9-8]。(EK)
- ・ 所属教員を講師とした出前講義を学科 Web サイトで募集や高大連携の模擬講義の実施している。
- ・ 中部大学第一高等学校へ教員を派遣し、高大連携実験・講義(化学)を行い、高校教諭との連携を深めている[9-9]。(EK)
- ・ 社会人教育として勉強会を開催し、学生の参加も促している。
- ・ 学科科目をエクステンションカレッジに開放している[9-2]
- ・ 国際交流に関しては、工学部との部門間協定および大学間協定に基づき、インドや台湾など様々な国からの特別研修生を積極的に受け入れている[9-2]。
- ・ これらの社会貢献の適切性や効果は、各学科会議で点検、検証している。

評価項目	0902	社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
教員の自己点検・自己評価として、各教員が毎年度初頭に「教育活動重点目標・自己評価シート」の中で社会貢献活動について記載したものを提出し、当該年度の重点目標と自己評価を学部長・学長が点検している[2-10]。また、地域連携課からの依頼に基づき学部内の社会連携・社会貢献活動を定期的に情報収集し、国際・地域戦略部門会議で報告される[9-2]。その内容は教授会において周知される[9-10]。 具体的状況は以下の通りである。 ・ 学科内での教室会議資料等で各教員の社会連携・社会貢献に関わる活動状況についても情報共有を行っている。今後は必要に応じて教員間の連携についてもさらなる検討を行う。[9-1] (EK)				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0902	国際交流提携を推進、学生の受入に積極的に取り組んでいる[9-2]。
項目 No. 0902	CU-Robocon を WRO Japan 公式予選会として毎年開くことで地域貢献をしている[9-4]。
項目 No. 0901	将来の技術者育成に向け国内各地に出向き、最先端技術を用いた「子供科学教室」を開催、地域に貢献している[9-7]。(EP)

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み(予定)および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0901	社会連携・社会貢献に関わる活動状況における教員間の連携 (EK)

今後の改善・向上方策	
社会連携・社会貢献に関わる活動に関して特定の教員に負担が集中しないように、必要に応じて教員間の連携について検討を行う（具体例：高大連携実験・講義を通じた高校教諭との交流、大学祭での研究発表など）。（EK）	
課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0901	子供科学教室の開催
今後の改善・向上方策	
科学教室の開催案内を大学内に限らず様々な地域で開催し、多くの方々に中部大学の教育活動を認知してもらう。（EP）	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	*各項に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022~2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 工学部

基準 11 大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☑ 2022 年度課題事項 ☐ ピアレビュー結果 (留意点)	
項目 No. 1120	対面会議のペーパーレス化を図る。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
Zoom で開催する教授会等の会議においては、完全なペーパーレス化が実現できているが対面開催の会議においては印刷物を配付している。配付資料を制限することで印刷枚数は削減している。 教室会議については Google Classroom 内のクラスとして「応用化学学科教室会議・応用化学専攻選考会議」を設置し、学科・専攻の会議の内容を集約し、教員間で情報の共有を行っている。[11-1] (EK) Zoom 活用と会議資料をクラウドにおく措置を実施している [11-2] (EP)	

☑ 2022 年度課題事項 ☐ ピアレビュー結果 (留意点)	
項目 No. 1120	学部内委員会の統廃合を進める。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2022 年度第 13 回工学部教授会にて、近年活動実績の乏しい学部委員会 (整備推進委員会、広報委員会、資格検討委員会、大学院検討委員会、活性化委員会) を教授会および各種委員会へ機能統合させた。また、2023 年度以降は工学部と理工学部で共通する委員会を共同開催することで効率的な運用を計画している [11-3]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
2020 年度より Zoom にて工学部教授会を実施し、会議前にデジタル化した資料を全構成員に配信し、ペーパーレス化と新型コロナウイルス感染症対策を行っている。工学部教授会、入学者選抜委員会等は年度始めに年間開催日程を教授会で周知し、工学部教職員専用ホームページでも公開している。会議終了後に議事録を作成し、起案決裁を取っている。また、工学部教授会、各種委員会で必要に応じて教育研究活動の検証を行うとともに、適切に議事録を作成している[11-4]。 2020 年度以降、工学部主任会の機能を教授会に統合し、組織としての透明性が向上され、より確実な情報伝達が可能となった。2021 年度末には工学部長による学部内委員会の統廃合を進める方針決定があり、理工学部設置に併せて委員会、各種業務、業務分担についても今後見直しを図った「11-3」。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	教授会資料のペーパーレス化を推進するとともに、会議前にデジタル化した資料を全構成員に配信。
項目 No. 1121	工学部主任会の機能を教授会に統合し、組織としての透明性が向上され、より確実な情報伝達が可能となった。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	教室会議および専攻会議資料の完全ペーパーレス化（EK）
今後の改善・向上方策	
印刷物の配付も併用しているため、これを改善していく。（EK）	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	クラウドの活用
今後の改善・向上方策	
Garoon を活用し、ペーパーレス・印鑑レス・情報共有を進める。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	*各項に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025年度 自己点検・評価シート 根拠資料一覧

組織名

工学部

基準（シートNo.）	根拠資料 No.	根拠資料の名称	提出 区分
2. 内部質保証 (NF2)	2-1	外部評価委員会議事録	○
	2-2	非常勤講師懇談会議事録	○
	2-3	2024年度 アドバイザリーボード会議資料および議事録（EK）	△
	2-4	卒業生（卒業時）アンケート結果（EK）	△
	2-5	建築学科のJABEE認定プログラム終了について（起案）	●
	2-6	2024年度幸友会企業へのアンケート調（EP）	△
	2-7	2024年度第1回情報工学科教室会議議事録（EP）	△
	2-8	大学HP 中部大学の内部質保証 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/know/quality-assurance/	○
	2-9	2024 年度工学部自己点検・評価シート	○
	2-10	2024 教員活動重点目標・自己評価シート（様式1）	○
	2-11	2024年度 JABEE提出自己点検書（EC）	○
4. 教育・学習(4a) (NF4a)	4a-1	第3回EC学科会議議事録	△
	4a-2	ECディプロマ・ポリシー	○
	4a-3	ECカリキュラム・ポリシー	○
	4a-4	2023年度外部評価委員会議事録	○
	4a-5	EC第13回学科会議議事録（抜粋）	○
	4a-6	2024年度 アドバイザリーボード会議資料および議事録	△
	4a-7	「入試状況調査アンケート」および「卒業生（卒業時）アンケート」結果	○
	4a-8	2024年度 各専門科目についての「学習達成度評価アンケート」例	○
	4a-9	2024年度 FD講演会開催資料および2023年度FD活動評価点検報告書	○
	4a-10	FDオンデマンド講義利用報告書_2023	○
	4a-11	EP学科会議議事録	○
	4a-12	第1回カリキュラム検討会議議事録	●
	4a-13	2023年度情報工学科教務会議議事録	○
	4a-14	第1回EL学科FD【資料1】科目精選to2025	○
	4a-15	実験検討委員会議事録(4a-1-EL_EL-Std-Lab-Comm_241121_Minutes.pdf)	○
	4a-16	学生便覧2024年度	○
	4a-17	教務委員会議事録	○
	4a-18	工学部履修ガイドブック（2024年度入学生対象） https://portal.chubu.ac.jp/student-dept/wp-content/uploads/sites/4/2024/05/engineering-guidebook-2024.pdf	○
	4a-19	2024年度科目ナンバリング表 https://portal.chubu.ac.jp/faculty/wp-content/uploads/sites/3/2024/05/kamoku-no-2024.pdf	○
	4a-20	カリキュラムマップ https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/undergraduate-list/	○
	4a-21	スタートアップセミナー（2022年版）建築学科	○
	4a-22	中部大学シラバスの一例（社会と工学） https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/slbssbdr.do?value(risyunen)=2024&value(semekikn)=1&value(kougicd)=12079&value(crclumcd)=01010000002016	○
	4a-23	シラバス点検依頼文書2024	○
	4a-24	授業評価実施要領	○
	4a-25	FDフォーラム・講演会 https://www.chubu.ac.jp/about/university-activities/university-education/#forum	○
	4a-26	履修の手引き	○
	4a-27	学習達成度アンケート（EK）	△
	4a-28	応用化学科・応用化学専攻研究交流会開催案内（EK）	○
	4a-29	建築実務セミナー告知（EA）	○
	4a-30	3年生向けの卒業研究発表会開催案内（EP）	△
	4b-1	卒業研究の評価方法・発表会実施方法について2024 教員用rev2.pdf)	●
	4b-2	2024年度 各専門科目についての「学習達成度評価アンケート」例	○
	4b-3	「入試状況調査アンケート」および「卒業生（卒業時）アンケート」結果	○
	4b-4	科研費実績報告書及び成果論文	○

4. 教育・学習(4b) (NF4b)	4b-5	情報工学科卒業論文	○
	4b-6	成績評価の共有例(建築工学演習)	△
	4b-7	オハイオ大学長期研修単位認定について	○
	4b-8	卒業研究ルーブリック(EC)	△
	4b-9	3つのポリシー https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/engineering/	○
	4b-10	卒業研究のシラバス(建築学科)	○
	4b-11	卒業研究審査基準と様式(情報工学科)	△
	4b-12	2024年度第12回工学部教授会議事録(2025.2.28)	●
	4b-13	一級建築士指定科目に該当する開講科目一覧(EA)	○
	4b-14	2024年度第13回工学部教授会議事録(2025.3.11)	○
	4b-15	卒業発表による学習成果把握	△
	4b-16	指導教授制度・PSH https://www.chubu.ac.jp/student-life/support/teacher/	○
	4b-17	学習・教育到達目標対応表(JABEE)	○
	4b-18	卒業研究シラバス例	○
	4b-19	情報工学科卒業論文	○
	4b-20	学科独自のFD委員会・学科教務会議	△
	4b-21	授業評価実施要領	△
	4b-22	数学教科書表紙	○
	4b-23	教育懇談会式次第	○
	4b-24	JABEE申請書2024_10-3	○
	4b-25	2023年度春学期教員打ち合わせ資料	○
	4b-26	2023年度秋学期成績会議・授業検討会議議事録	○
	4b-27	2023年度第1,2回創造理工学実験運営委員会議事次第	○
	4b-28	2023年度 教育課程変更について(EP)	○
	4b-29	外部評価委員会議事録(EA)	○
5. 学生の受け入れ (NF5)	5-1	情報工学科AP変更案(EP)	○
	5-2	入試案内 https://www.chubu.ac.jp/admissions/entrance-exams/	○
	5-3	中部大学第一高等学校と工学部・理工学部との意見交換会	○
	5-4	2024年度在籍者数(学部)	○
	5-5	工学部・工学研究科女子学生交流会	○
	5-6	フレッシュマンテスト数学結果	△
	5-7	入学前情報提供の概要およびスケジュール	○
	5-8	建築学科入学前教育課題(EL)	○
	5-9	入学前教育実施の案内(EL)	○
	5-10	フレッシュマンテスト化学結果	△
	5-11	EC学科会議議事録	△
	5-12	建築学科入学前教育学科独自課題(EA)	○
	5-13	【最終版】実施概要・アンケート集約 女子交流会 241030	○
6. 教員・教員組織 (NF6)	6-1	学科人事計画のための教員構成(年齢や分野)のまとめ資料(EK)	△
	6-2	教育職員の人事に関する細則	○
	6-3	工学部・理工学部ポイント表	△
	6-4	人事に関する手続きについて	△
	6-5	2024年度情報工学科教室会議(教授のみ)議事録(EP)	△
	6-6	2024年度教育活動顕彰制度 工学部実施要項	○
	6-7	メディアに紹介される中部大学 https://www.chubu.ac.jp/news-top/4415/	○
	6-8	創成実習ガイダンス(テーマ紹介)資料	△
	6-9	2024年度FD講演会開催案内(EP)	△
7. 学生支援 (NF7)	7-1	Google Classroom「応用化学科&応用化学専攻 就活情報」(EK)	△
	7-2	2024年度就職キックオフ案内および就職活動状況表(EK)	△
	7-3	卒業生(卒業時)アンケート結果(EK)	△
	7-4	2024年度 アドバイザリーボード会議資料および議事録(EK)	○
	7-5	2024年度 各専門科目についての「学習達成度評価アンケート」例(EK)	△
	7-6	甲種危険物取扱者など資格取得支援講座(EK)	△
	7-7	情報工科学習支援案内メール(EP)	△
	7-8	建築学科_学習・CAD相談員制度	△
	7-9	障害のある学生への支援	△
	7-10	学生ポートフォリオ	○
	7-11	(電気システム工学科・電気電子システム工学科) 質問の時間について	○
	7-12	学科会議議事録	△
	7-13	(機械工学科)就職担当者会議議事録	○

	7-14	(機械工学科)就職ガイダンス開催告知1	○
	7-15	(機械工学科)就職ガイダンス開催告知2	○
	7-16	(機械工学科)求人情報掲示開始通知	○
	7-17	(機械工学科)企業面談担当割当表	○
	7-18	(機械工学科)求人情報データベース案内資料	○
	7-19	建築実務セミナー告知	○
	7-20	(電気電子システム工学科)求人情報	○
	7-21	2022年度(応用化学科) 学科内企業説明会の案内	○
	7-22	2023年度カリキュラム検討委員会議事録(EC)	○
	7-23	2023年度第教育支援検討委員会議事録(EC)	○
	7-24	EC学科会議議事録	△
	7-25	1級土木施工管理技士1次試験対策講座 案内	○
	7-26	工学部・理工学部ライティング塾チラシ	○
	7-27	スタートアップセミナー「文章表現法」授業資料 (EP)	△
	7-28	情報工学科学習支援室開設案内メール	○
	7-29	質問の時間2023(EL)	○
8. 教育研究等環境 (NF8)	8-1	教育・研究に係る学部重点計画案	△
	8-2	中期予算計画調査票	△
	8-3	局所排気装置ドラフトチャンバーの安全確認票 (EK)	○
9. 社会連携・社会貢献 (NF9)	9-1	応用化学科教室会議議事録 (例) (EK)	△
	9-2	国際・地域戦略部門会議 第1回資料	○
	9-3	高等教育推進課刊行物 https://www.chubu.ac.jp/about/university-activities/university-education/publication/	○
	9-4	中部大学学長杯争奪LEGOロボットコンテスト	○
	9-5	地域創成メディエーター https://www.chubu.ac.jp/community-extension/wp-content/uploads/sites/17/2024/04/2024mediator-leaflet.pdf	○
	9-6	科学・物理実験会 https://www.chubu.ac.jp/student-life/club/introduction/science/	○
	9-7	子供科学教室 木村研活動資料(EP)	○
	9-8	中部大学大学祭「七宝焼き教室」(研究発表展) (EK)	△
	9-9	中部第一高等学校・高大連携 実験・講義 (化学)	△
	9-10	2024年度第3回工学部教授会議議事録	○
11. 大学独自の評価項目 (NF11)	11-1	Google Classroom 「応用化学科教室会議・応用化学専攻選考会議」(EK)	△
	11-2	情報工学科教室会議議事録(EP)	△
	11-3	2024年度 理工系教育圏各種委員会名簿	○
	11-4	工学部教授会議議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管